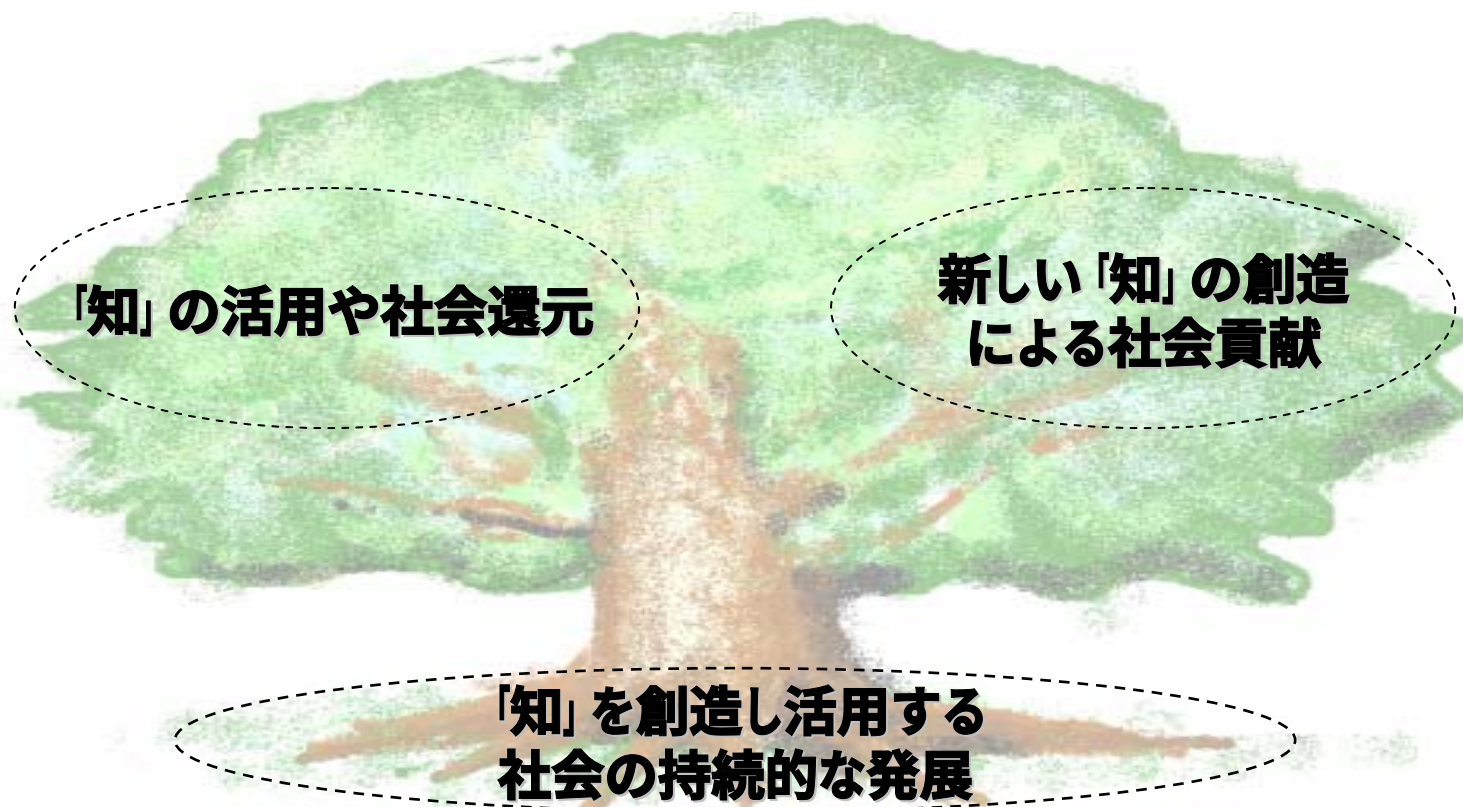


「科学技術と社会という視点に立った人材養成を目指して」 (科学技術・学術審議会人材委員会第三次提言) について



人材委員会第三次提言までの検討の経緯

科学技術・学術審議会(会長・末松安晴 国立情報学研究所長)の下に、人材委員会(主査:小林陽太郎 富士ゼロックス会長)を設置、平成13年12月より審議を開始。

第1次提言 「世界トップレベルの研究者の養成を目指して」

世界トップレベルの研究者の養成を目指す上で、「幅広い知識を基盤とする高い専門性」が重要であることを指摘し、大学院博士課程における教育機能の重視などを提言 (平成14年7月)

第2次提言 「国際競争力向上のための研究人材の養成・確保を目指して」

国際競争力の向上のための研究人材の養成・確保を目指して、多様な研究人材がそれぞれの能力を十分に発揮できる環境の整備等について検討 (平成15年6月)

第3次提言 「科学技術と社会という視点に立った人材養成を目指して」

第1次・第2次提言の内容も改めて振り返りつつ、第2次提言までに取り上げるに至らなかった、

- 科学技術分野の理解増進活動
- 技術者の養成・確保
- 博士号取得者等のキャリアパス

などの課題を中心に検討 (平成16年7月)

科学技術と社会という視点に立った人材養成を目指して

～科学技術・学術審議会人材委員会 第三次提言（概要図）～

「知」の活用
や社会還元

新しい「知」の
創造による
社会貢献

「知」を創造し活用する
社会の持続的な発展

「知」の活用や社会還元

新しい「知」の創造による社会貢献

新しい知識と技術 を結ぶ創造性豊 かな技術者養成	産学官連携等 を推進する 人材の養成	対話型科学技 術社会を構築し ていく人材養成	求められる 人材（役割）	世界をリードする 質の高い研究者養成	多様な研究者が活躍 できる環境整備
○産学人材養成パートナーシップ確立		○科学技術コミュニ ケーション人材の 養成・確保 ○理数担当教 員の意欲、意識 を含めた資質向 上	具体的な 改革方策	○研究教育拠点等へ の支援の強化 ○若手研究者等の海 外派遣充実等 ○振興・融合分野に おける人材養成モデ ル事業の推進	○多様性をはぐくむ創 造的・競争的環境醸成 ○多様な研究者が活 躍できる研究環境構築
○継続的能力開 発環境整備 ○実行力、創造力 を持った技術者、 高度技能者の養成	○新産業創出 への貢献 ○高度専門職 業人の養成				

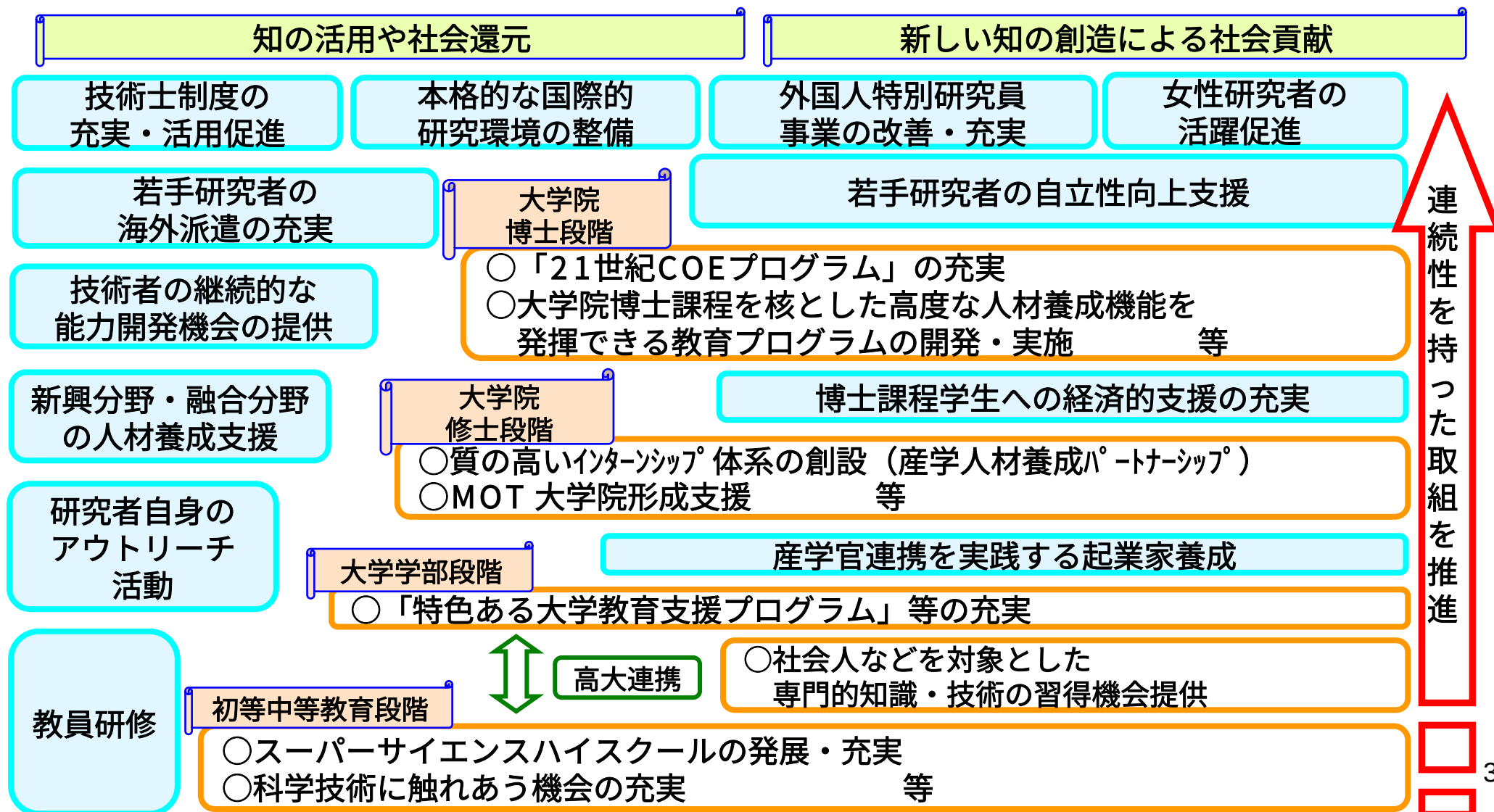
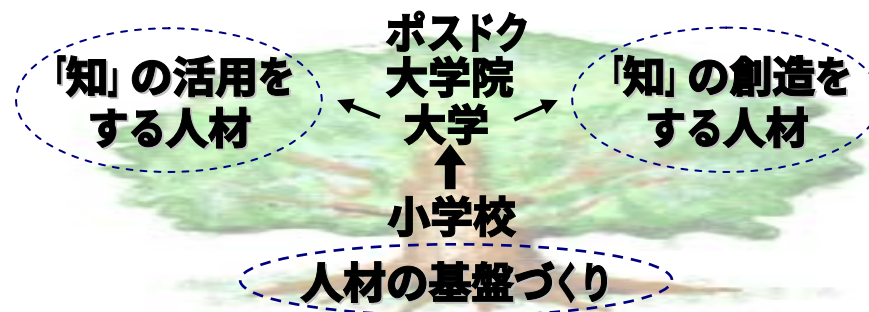
「知」を創造し活用する社会の持続的な発展

具体的な改革方策

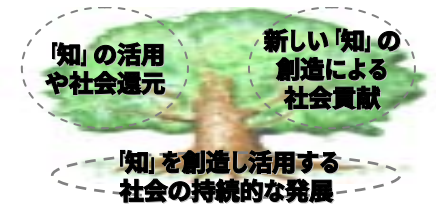
重点事項	具体的な改革方策
博士号取得者等の 社会の多様な場における 活躍促進	○大学院博士課程における教育機能の強化 ○優秀な人材の博士課程進学に対するインセンティブ付与 ○博士号取得者等が社会の多様な場へ進出し、活躍できる環境の整備
初等中等教育段階から科学 技術を支える人材養成	○初等中等教育段階からの科学技術分野において卓越した人材の育成 ○理数への興味・関心を高め、理科好きの子ども裾野を広げる

科学技術と社会という視点に立った 人材養成を目指して (主な改革方策)

～科学技術・学術審議会人材委員会 第三次提言～



今後の方向性



- ・近年の人材や技術など「知」をめぐる国際競争が激化する国際情勢のなかで、我が国の多様な科学技術関係人材の質と量の確保が必要。
- ・また、今後の科学技術・学術活動の基盤となる人材の養成・確保に関して大きな影響を及ぼす少子高齢化の問題についての検討、ポストドクターの実態把握等が必要。
- ・平成18年度から実施予定の第三期科学技術基本計画に向けた検討動向に留意しつつ、人材委員会としても今後必要な検討を行っていく予定。